

右大臣岩倉具視殿

四年三月  
正系五

乙第百廿拾号

地租創定着手ノ義上申

當使管内地租ノ義目下ノ景况府縣ニ比較難  
相成<sup>三</sup>有當分地價百分ノ一被相定創定ノ細目  
等ハ當使限リ適宜処分致度段明治九年十一  
月甲第二十七号ヲ以テ伺濟ニ付右諸本直ノ義府  
縣一般改正ノ旨趣ニ基キ專ラ賣地ノ景况ヲ酌量  
ニ地券發行<sup>手続例</sup>續別紙ノ通條例相設ク施行ノ  
義管内ニキ布連致シ置候上<sup>手続例</sup>年除租滿期  
ノ地所ヨリ漸次着手ノ都合ニ有之候間此段上  
申候也

明治十年十月五日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

第拾五號

本 支 廳

昨明治九年十一月十二日第百六十九號詔ヲ以テ北海道地租ノ儀  
御布告相成候ニ付土地丈量地所ノ制限區分ヲ定メ地  
券ヲ附與シ地租課収可致候條別冊地券發行條例ニ照  
準施行可致石ハ土地整理民產保護ノ要務ニ付取調向  
等精々注意可致此旨相達候事

明治十年十二月十三日

閣下長官黑田清隆

閣下使

北海道地券發行條例

第一章 總則

第一條 土地ノ種類ヲ分テ宅地耕地海産干場牧場山林トシ官有地ヲ除クノ外人民各自之ヲ所有セシム其經界步數ヲ正シ地位等級ヲ定メ地券ヲ發シ地租ヲ課スヘシ

第二條 地租ハ北海道地所規則並土地賣賃規則ニ揭載セル除租滿期ノ翌年ヨリ課收スヘシ

第三條 河岸海岸等ハ總テ官有地トシ其差支ナキ場所ハ人民ノ望ニ因テ之ヲ貸渡シ貸地ノ証ヲ附與シ賃地料トシテ地價百分ノ一ヲ取立ヘシ

但既ニ私有ニ屬セル者並自費ヲ以テ水面ヲ埋立タル等ノ類ハ本條ノ地所ト雖モ之ヲ私有セシム

ルナアルハシ

第四條 土地査定地券発行ノ後ハ其地價ニ隨テ年々一定ノ租額ヲ課收シ年ノ豊歉等ニ因テ之ヲ變更スルナシ

第五條 天災地震ニ因テ地形變換スルトキハ實地ヲ點檢シ損害ノ厚薄多少ニ隨ヒ該地ノ全部或ハ其幾分ヲ別テ年限ヲ定メ減租或ハ除租等ノ處分ヲ為スハシ

第六條 各種ノ地所除租收租ノ別ナク地券附與ノ後ハ賣買讓渡書入質入等總テ其規則ニ照シ所有者ノ自由ニ任スヘシ

但地券發行ノ後地價ノ増減ヲ生スルモノハ明治七年<sup>即ち</sup>第五<sup>號</sup>於三<sup>號</sup>御布告ニ照準スヘシ

第七條 地券附與ノ後ハ耕地宅地トモ一券面ノ地所ヲ裂キ賣買讓渡等其規則ニ照シ所有者ノ自由ニ任スヘシ

第八條 明治九年十月漁場更正ノ際一旦土地申付更ニ割渡シタル海産干場其除租年限中賣買讓渡セル各種地所ノ除租年限ハ最初定メタル年ヨリ通算<sup>假令</sup>ハ除租七年ノ地ヲ五年目ニ賣買スルトキハ買受ル者共買得タル年ヨリ三年間除租四年目ヨリ收租ノ類スヘシ

第二章 土地検査ノ手續

第九條 土地丈量ハ各地ノ除租年限ニ隨テ順次整理スヘシ

第十條 土地ヲ丈量スルトキハ各廳長官ノ名ヲ以テ豫メ其施行スヘキ郡村ノ人民ハ着手ノ期程ヲ布達

シ期日ヲ受ノ各自所有ノ地名坪数ヲ記シ図面ヲ副  
シ之ヲ差出サレムヘシ

第十一條 地所各種ノ區分ハ土地ノ形勢ニ因リ自然  
區域ヲ為スモノニ就テ之ヲ別ツ宅地區域中ニ籠ル

田畑ハ宅地トシ耕地ハ海産干場區域中ニ在ル居屋  
ハ耕地ハ海産干場トスヘシ尤該區域中ト雖モ其區

畫判然タル別種ノ地所及右ニ接續シテハ區域ヲ為  
ス別種ノ地所ハ其種類ヲ區分スヘシ

但從來海産干場中ニアル居屋漢舍倉庫ノ敷地等  
除租ノ年限ハ地所規則第一條ノ通タルヘシ

第十二條 土地ヲ丈量スルトキハ毎村町各地ノ經界  
ヲ區分シ其步数等ヲ詳記シタル地圖ヲ制スヘシ

第十三條 各種ノ地所官有民有ノ區別及其名稱ハ總  
テ明治七年十一月第一號勅令ノ公布ニ據テ處分スヘシ

第十四條 新ニ道路ヲ開設スヘキ場所ハ丈量施行ノ  
際明治九年第六號御建書ニ據テ其間數ヲ定メ從

前開設セル道路ノ左右既ニ民有地ニ係リ間數制限  
ニ適シ難キ分ハ往來運輸ノ障礙有無ヲ計リ成ルヘ

ク舊貫ニ依ルヘシ新設ノ道路ト雖モ地形ニ因リ其  
間數制限ニ循ヒ難キモノハ便宜査定スヘシ

但舊來ノ道路ト雖モ敷地狹隘ニシテ往來運輸ノ  
障礙ヲ為スモノハ家屋倉庫等ヲ營構セル地面ト

雖モ必ス貸地ト為スヘシ又土地ノ形況ニ依リ道  
路敷地ノ内ヲ貸渡シ置クコトアルヘシ

第十五條 山林川澤原野等ハ當分總テ官有地トシ其  
差支ナキ場所ハ人民ノ望ニ因リ貸渡し或ハ賣渡ス

トアルハシ

第十六條 舊蝦夷人住居ノ地所ハ其種類ヲ問ハス當  
分總テ官有地第三種ニ編入スハシ

但地方ノ景況ト舊蝦夷人ノ情態ニ因リ成規ノ處  
分ヲ為ストアルハシ

第三章 地價査定ノ方法

第十七條 地價査定ノ方法ハ丈量終テ各地ノ等級ヲ  
分チ土地ノ景況ニ因リ収獲賣買入札ノ三法ヲ用ヒ  
テ之ヲ概定シ然ル後全道一般ノ地位ヲ比較シテ之  
ヲ査定スハシ

第十八條 各地ノ等級ハ僅少ノ差ヲ以テ瑣細ニ之ヲ  
區分セス一村ヲ通觀シ其地位概畧相全シキモノヲ  
類聚シテ之ヲ區別シ又一郡ヲ通觀シテ各村ノ等級

ヲ定ムハシ

第十九條 各村ノ等級ヲ定ムルニハ甲乙二村各種ノ  
一等地ヲ取テ之ヲ比較シ其差等乙村ノ一等地ハ甲  
村ノ二等地或ハ三  
等地ニ當リ因リ之ヲ分ツ丙村ノ乙村ニ於ケル丁村  
ノ丙村ニ於ケルモ總テ右ニ準スハシ

第二十條 市街ハ一面ノ地所其表裏等地位ノ差等  
アルモノハ之ヲ區分セズ折衷斟酌シテ一ノ等級ニ  
定メ一町内ヲ通觀シテ之ヲ類別シ然ル後一市街ヲ  
通觀シテ各町ノ等級ヲ分ツ其比較査定ノ方法ハ各  
村ノ例ニ徴フハシ

第二十一條 耕地ノ等級ヲ定ムルニハ地質ノ厚薄水旱  
害ノ多少等ヲ參酌シ宅地ハ土地ノ景況戸口ノ粗密  
及運輸ノ便否等ヲ參酌スハシ

第二十二條 海産干場、漁業ノ使否或ハ地質ノ適否  
及漁獲ノ多寡運輸ノ便否等ヲ斟酌シテ其等級ヲ分  
ツヘシ

第二十三條 収獲法ヲ用テ地價ヲ定ムルハ明治六  
年天藏省達地方官心得書第十二章檢査例第一則ニ  
法リ其収獲ノ<sup>類</sup>多寡ニ因テ地價ノ差等ヲ調査シ  
入札法ハ至<sup>上</sup>舊規ヲ斟酌シテ之ヲ施行スヘシ

第二十四條 賣買代價ヲ用フルトキハ明治九年地租  
改正事務局別報第十四號市街地租調査法細目第三  
條ニ法リ之ヲ調査スヘシ

第二十五條 地價ハ各地悉ク調査スルヲ要セス土地  
ノ景況ニ從ヒ一村町或ハ數村町ニテ所許ノ地所  
ニ就テ之ヲ調査シ適實至當ノ價位ヲ得テ然ル後各

地ノ等級ニ隨ヒ類推假定シ又一郡内各地ノ等級及  
價位ヲ通觀シテ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 郡村宅地ハ耕地ニ比較シ海産干場ハ其  
接近セル宅地耕地ニ比準シテ之ヲ參酌シ其平準ヲ  
失ハサルヲ要スヘシ

第二十七條 市街宅地及海産干場ノ地價ハ百坪若干  
耕地等ハ一反若干ト定ムヘシ

第二十八條 地價調査ノ方法ハ前各條ニ據ルヘシト  
雖モ全道地價概定ノ後之ヲ査定スルハ札幌廳下各  
種ノ地所ハ函館廳下ノ地所ヲ標準<sup>札幌</sup>ノ一等地ハ  
<sup>函館</sup>ノ二等地或  
ハ三等地ニ  
準スルノ類トシ根室廳下ハ札幌廳下ヲ標準トスル  
等各其類ヲ推シ比擬參酌シテ全道各所ノ平準ヲ失  
ハサルヲ要スヘシ

第四章 地券調製ノ手續

第二十九條 地券ハ全道一般地價査定ノ後之ヲ発行スヘシ

第三十條 第二章第十二條ニ掲載セル地図ニ就キ一村一町毎ニ各地順次ニ番號ヲ附シ其步數ヲ記シ所

有者ノ姓名ヲ署シ除租地收租地貸地ノ別ナク一村一町限リ逐號類聚シテ地券調査録ヲ編製スヘシ

第三十一條 地券調査録編成ノ後ハ各地番號ノ順次ニ隨ヒ地券ヲ製シテ所有者ニ附與スヘシ

第三十二條 地券録甲乙二部ヲ割シ地券附與ノ際收租地官用地ハ甲除租地ハ乙ノ地券録ニ券面ノ番號并數所有者ノ姓名附與ノ年月日ヲ記シ券狀ト割印スヘシ

第三十三條 地券ノ法式收租地ハ第一號官用地ハ第二號除租地ハ第三號雜形ニ照準シテ之ヲ製スヘシ

第三十四條 貸地ハ第四號雜形ニ照準シタル貸地ノ証ヲ作り其番號并數借用者ノ姓名附與ノ年月日ヲ貸地録ニ記シ割印スヘシ

第三十五條 除租地ハ除租ノ滿期ニ隨ヒ該年六月三十日マテニ最前附與セル券狀ヲ差出サシメ收租ノ券狀ト交換附與シ地券録甲部ヨリ乙部ニ移載シ第四章第三十二條ノ手續ヲ為スヘシ

第三十六條 地券所有ノ者代替買賣讓渡ノ節ニ速ニ其事由ヲ具狀シ地券書替ヲ願出シメ地券録ヲ更

正シ第三十二條ノ手續ヲ為スヘシ

第三十七條 水火盜難等ニテ地券ヲ亡失セシトキハ



速ニ書替ヲ願出シノ之ヲ推究シテ其事由判然タル  
ハ新ニ地券ヲ製シ第三十二條ノ手續ニ從テ之ヲ附  
與スヘシ

第三十八條 地券所有ノ者一券面ノ地所ヲ裂キ之ヲ  
賣買讓渡セシト欲スルトキハ其坪数及テ代價等ヲ  
詳記シ其事由ヲ具シテ地券書替ヲ願出シムヘシ  
第三十九條 前條出願其事由判然タルトキハ本地分  
地各別ニ地券ヲ製シ第三十二條ノ手續ニ從テ之ヲ  
附與スヘシ尤各券面ニ記スル地所ノ番號ハ之ヲ改  
メス券面番地ノ下ニ甲乙等ノ符字ヲ記シテ之ヲ附  
ツヘシ

第四十條 前各條地券附與ノ節ハ必ラス受取証書ヲ  
差出サレシノ分類編輯シテ地券錄各部ノ附録ト為ス

ハシ  
第四十二條 貸地証所持ノ者代替兵水火盜難等ニテ  
証書ヲ亡失セシトキハ地券同一ノ手續ニ從テ書替  
ヲ願出シノ貸地錄ヲ更正シ第三十四條ノ式ニ據テ  
之ヲ附與スヘシ尤新規書替トモ証書附與ノ節ハ必  
ラス受取証書ヲ差出サレシノ貸地錄ノ附録トナスヘ  
シ

第四十二條 收租地地券新規附與及賣買書換ノ節ハ  
券面ノ地價ニ隨ヒ毎寺枚証印稅トシテ尤ノ通取立  
ヘシ

地券ニ記ヤシ地價

式圓迄

金八厘

式円以上  
百円迄

金壹錢五厘

司小史

百円以上

金五銭

式百円以上

金三於三銭

五百円以上

金四於銭

千円以上

金五於銭

式千円以上

金八於三銭

五千円以上

金十円於五銭

第四十三條

除租地地券新規附與及賣買讓渡等ニ付

書替及下收租地代替換與水火盜難等ニテ書替ノ節

ハ証印税トシテ毎寺枚金八重ヲ取立貸地証書新規

附與及書替ノ節ハ手数料トシテ金八重ヲ取立ヘシ

第五章

地所種類ノ區分及其制限

第四十四條

家屋ヲ建設セル寺區ノ地ヲ宅地トシ

區域ヲ為セル田畑ヲ耕地トシ海産製煉貯藏等ノ為

メニ用フル一區ノ地ヲ海産干場トシ其他山林牧場

各一區域ヲ為セルモノニ就テ其稱呼ヲ定ムヘシ

第四十五條

耕地宅地ハ何人ニ拘ハラズ人民各自之

ヲ所有セシムヘシ

第四十六條

牧場ハ各郡村人口ノ多寡ト土地ノ廣狹

トニ因リ牧畜ニ適スヘキ原野ヲ擇ニテ其經界步數

ヲ定メ官有地第三種ニ編入スヘシ

第四十七條

官ニ於テ試驗ノ牧場ヲ要スルトキハ前

條ノ外ニ適宜ノ地ヲ撰ニ其經界步數ヲ定メテ官有

地第二種ニ編入シ人民牧畜營業ノ為メニ要求スル

地所ハ其經界步數ヲ定メテ之ヲ貸渡シ或ハ私有セ

シムヘシ

第四十八條

海産干場ハ海産採取ノ業ヲ営ム者ニ非

サレハ之ヲ所有セシムハカラス

但本條ノ地所所有者ノ都合ニ依リ他人ニ貸渡シ  
營業セシムルハ妨ケナシトス尤貸渡ストキハ必  
ラズ其事由ヲ具状セシメ審査ノ上之ヲ許可スハ  
シ

第四十九條 北海道地所規則ニ掲載セル漁濱昆布場  
ヲ自今改メテ海産干場ト稱スハシ

第五十條 海産干場ハ海産營業ノ為メニ所有セシム  
ルモノナレハ營業ノ差等ニ随テ地所坪數ノ制限ヲ  
定ムハシ

第五十一條 海産干場ハ一券面ノ地所ヲ分裂シテ之  
ヲ賣買讓渡スハカラス

第五十二條 海産干場ノ海岸地浪打際満潮ノヨリ五  
時ヲ云

間乃至十五間ハ之ヲ官有地トシ干場所所有ノ者ニ貸  
渡シテ之ヲ所用セシムハシ

但海産營業者ノ都合ニ依リ所有地ヲ他人ニ貸渡  
ストキハ該地接續ノ官有地モ改メテ該地借用人  
ニ貸渡スハシ尤本條間數ノ内ヲ道路ノ敷地ニ充  
ツルヲアルハシ

第五十三條 山岳等海濱ハ突出シ土地狹隘ニシテ前  
條ニ掲載スル間數ノ外私有セシムハキ餘地無之場  
所ハ總テ官有地トシテ之ヲ貸渡スハシ

第五十四條 従前該地土着ノ人民ニシテ舊來之ヲ所  
有シ干場内ニ住居者ニ限り其制限ニ過ル一割千  
坪

第五十五條 海産干場坪數ノ制限ハ居屋澳舍倉庫等

ノ敷地ヲ合セテ之ヲ算ス、シ

第五十六條 海産干場所所有ノ者地所割渡ノ儘營業ニ着手ヤスシテ賣買讓渡スルヲ許サズ割渡ノ後一周年間着手ヤサルモノ及着手後中止スルモノハ上地申付ハシ尤モ甲ニ於テ既ニ着手セル場所ヲ乙ハ賣渡シ乙ニ於テ相當ノ營業ヲ為サ、ル欵或ハ中止スルモノハ土地賣貸規則第三條ニ掲載セル上等地價ノ割ヲ以テ之ヲ買上クヘシ

第五十七條 海産干場所數ノ制限ハ土地ノ形勢ニ因リ之ヲ増減スルヲアルヘシト雖モ其坪數及ヒ間數大畧老ノ如シ尤モ舊来戸口稠密ニシテ此制限ニ循テ難キ場所ハ従前ノ慣習ニ依リ之ヲ所有セシムルアルヘシ且該地ノ形ヲ變ヤス鮮場ニ於テ鮮場ニ

於テ鮮其他ノ漁業ヲ営ム等ノ類ハ總テ營業者ノ自由ニ任スヘシ

鮮鰯建網

一統ニ付 千坪

海面表口 五松間 奥行 式松間

鮮鰯鮭引網

一統ニ付 千五百坪

海面表口 六松間 奥行 式松間

鮮差網

十枚ニ付 式百坪

海面表口 於松間 奥行 式松間

鮭建網

一統ニ付 五百坪

海面表口 式松間 奥行 式松間

大房網

一統ニ付 空

海面表口 空 奥行 空

昆布刈船

一隻ニ付 四百五拾坪

海面表口 式於五間 奥行 於八間

但一區ノ干場ニ於テ網數統船數隻ヲ用ヒテ營業スルモノハ一統或ハ一隻毎ニ制限坪數ノ半ヲ増加シ鮮差網ハ十枚毎ニ其四分ノ一ヲ増加スヘシ

第五十八條 干場所數ノ制限ハ前條ノ割合ヲ以テ之

ヲ定ムト雖モ與行淺クシテ其間數制限ニ滿テ難キ  
 場所ハ適度ニ隨テ表口ノ間數ヲ増シ且與行ノ間數  
 其制限ニ過クルモ土地ノ形勢ニ因リ他ノ障礙ヲ為  
 サルモノハ之ヲ許スヲアルハシ

開  
 打  
 何

第一號 収租地々券雜形

地券

何國何郡何村何番地

開  
 収  
 印

何字何

何國何郡何村

大耕地

何段何畝步持主

日宅地

苗字名

本海產干場  
 何千何百何拾何坪

帝 代價何程

國 此百分ノ一

改 金何程

府 地租

右検査之上授與之

〔本支廳在勤長官〕

年月

官苗字名印

開  
 打  
 何